

# 地質標本館の年表

尾上 亨<sup>1)</sup>・神戸信和<sup>2)</sup>・山田直利<sup>3)</sup>・松江千佐世<sup>1)</sup>・奥山(楠瀬)康子<sup>1)</sup>

年	地質標本館の動き	地質調査所の動き	社会の動き・地球科学の動向
明治7 (1874)		1.10 内務省地理寮設置 2. 地理寮に木石課設置	
明治9 (1876)	木石陳列所に鉱物・岩石標本陳列		12.27～明10. 2 大島三原山噴火
明治13 (1880)	1. 赤坂区葵町に展示施設「地質課列品室」完成		
明治15 (1882)		2.13 地質調査所設立 初代所長 和田維四郎	3.20 上野動物園開園 10. 9 日本銀行創立
明治26 (1893)	4. 1～7.31第3回内国勸業博覧会に鉱物標本出品 5. 1～10.30 コロンブス記念万国博覧会(シカゴ)に岩石標本等計417点出品		5. 東京地質学会(後の日本地質学会)創立 10.15 地質学雑誌創刊
明治28 (1895)	4. 1～7.31第4回内国勸業博覧会に鉱石標本出品		X線の発見
明治30 (1897)	8.28～9.1 第7回万国地質学会議に鉱物標本等計458点出品	6. 1 地質調査所を廃し、鉱山局地質課となる	8.28～9. 1 第7回万国地質学会議(セントペテルスブルグ)
明治33 (1900)	4.14～11.3 パリ万国博覧会に化石標本等計800点出品(和田標本を含む)		4.14～11. 3 パリ万国博覧会 8.16～27 第8回万国地質学会議(パリ)
明治34 (1901)	本所の標本を農商務省陳列館(後の特許陳列館)に移す		
明治37 (1904)	ルイジアナ貿易博覧会に岩石標本等計834点出品(和田標本を含む)		4.30～11.29 セントルイス万国博覧会
明治39 (1906)	9. 木挽町新庁舎に文庫・陳列館設置	9. 庁舎を麴町区道三町から京橋区木挽町に移転	9. 6～14 第10回万国地質学会議(メキシコ)
明治42 (1909)	アラスカ・ユコン太平洋博覧会に標本出品		1.～4. 樽前火山噴火 5.31～12. 7 浅間山噴火
明治43 (1910)	5.14～10.29 日英博覧会に岩石標本等計500点出品 鉱物陳列館完成		8.18～25 第11回万国地質学会議(ストックホルム)
明治44 (1911)	5. 1 鉱物陳列館開館 鉱物陳列館主任 野田勢次郎		アムンゼン南極探検

1) 地質調査所 地質標本館

2) 元地質標本館長, 上智大学理工学部

3) 元地質標本館長, 三井金属資源開発株式会社

キーワード: 地質標本館, 年表

年	地質標本館の動き	地質調査所の動き	社会の動き・地球科学の動向
大正2 (1913)	大阪関西教育博覧会に火山模型と標本 出品 岡山御登極記念教育博覧会に標本出品		8. 7~14 第12回万国地質学会議 (トロント)
大正3 (1914)	3.20~7.31 東京大正博覧会に磐梯山・ 富士山模型と標本出品 パナマ太平洋万国博覧会に岩石標本等 計298点出品		1.12 桜島大噴火 パナマ太平洋万国博覧会 (サンフランシスコ)
大正4 (1915)	11. 1 鉱物陳列館3号室増設公開		6. 6 焼岳爆発。大正池生れる
大正6 (1917)	2.28 鉱物陳列館主任 岡村要蔵 12. 9 東宮殿下行啓		
大正7 (1918)	8.15 鉱物陳列館改築のため閉館		
大正9 (1920)	4. 鉱物陳列館落成 鉱物文明博覧会に鉱物標本50点出品		
大正10 (1921)	5.20 鉱物陳列館開館		
大正11 (1922)	3.10~7.31 平和記念東京博覧会に標本 173点出品、学制頒布50年記念教育展 覧会、農商務省試験事業展覧会、大阪 府産業試験事業展覧会及び徳島県教育 展覧会に標本出品		8.10~19 第13回万国地質学会議 (ブラッセル)
大正12 (1923)	9. 1 関東大地震で鉱物陳列館焼失	9. 1 庁舎焼失 11.24 木挽町のバラックに移転	9. 1 関東大地震 M7.9 死者 91,344人
昭和8 (1933)	5.17 鉱物陳列館が再建され開館	5.17 創立50周年記念	3. 3 三陸大津波 死者1,535人 7.22~29 第16回万国地質学会議 (ワシントン)
昭和15 (1940)	鉱物陳列館の公開中止	10.15 機構改革により6部庶務課制 となる	
昭和20 (1945)	5.25 鉱物陳列館空襲で焼失	5.25 庁舎空襲で焼失	8.15 終戦
昭和21 (1946)		7. 1 川崎市溝の口に庁舎移転	7.21 南海大地震 M8.0 11. 3 新憲法発布
昭和24 (1949)	9.15 資料標本課独立 課長村越 司 (標本室室長心得 大塚寅雄)	9.15 機構改革 5部, 3課, 4支 所, 4駐在官制となる	1.21 日本学術会議第1回総会 11. 3 湯川秀樹氏ノーベル物理学賞 受賞
昭和26 (1951)	3.16 資料標本課標本室室長 尾原信彦 6.16 資料標本課の標本室は標本係に改 められる 標本係係長 尾原信彦 7.16 標本係係長 松原秀樹	5. 2 鉱床部・燃料部の一部新宿区 河田町庁舎(東京分室)へ移転	3. 9, 4.16 三原山大爆発
昭和27 (1952)	8. 1 機構改革にともない資料標本課は 資料課となり、標本係は地質部図幅第 2課に配置換えとなる 11.15 陳列室として公開	8. 1 工業技術院設置にともない機 構改革 11. 5 創立70周年記念式典	3. 4 十勝沖地震 6. 9 日本鉱物学会創立 9. 8~13 第19回万国地質学会議 (アルジェ) 9.17 海底噴火で明神礁誕生
昭和32 (1957)	10. 1 標本係係長 井上綯夫	12.16 創立75周年記念式典	10. 4 ソ連初の人工衛星打上げ成功

年	地質標本館の動き	地質調査所の動き	社会の動き・地球科学の動向
昭和37 (1962)	4.16 標本係係長 松原秀樹	11.2 創立80周年記念式典	
昭和40 (1965)	7.1 地質部地質第1課第6調査研究室が地質標本に関する業務を担当することになる 第6調査研究室長 松原秀樹		8. 松代群発地震はじまる 10.21 朝永振一郎氏ノーベル物理学賞受賞
昭和46 (1971)		4.1 次長制実施, 総務部・企画室体制に 12.6 通商産業省省議で筑波移転決定	7.1 環境庁発足
昭和47 (1972)		4.1 団地化対策委員会設置 7.1 地質部に海洋地質課設置, 鉱床部改組	5.15 沖縄返還 沖縄県発足 8.21~9.1 第24回万国地質学会議 (モントリオール)
昭和48 (1973)	3.31 部長会議において, 筑波移転に伴い地質標本館設置計画に関する方針「地質標本館の性格」「地質標本館の施設設備の前提条件」を決定 4.1 地質標本館レイアウト小委員会設置 4.1 「地質標本の研究」が所内特別研究に指定される 4.1 コンピューターによる地質標本管理・検索システム (GEMS) の導入計画始まる 4.24 第1回地質標本館レイアウト小委員会開催される 10.16 第1回地質標本館レイアウト小委員会報告会開催	7.1 地質部に海洋地質第二課設置	4.12~49.6 小笠原西之島海底噴火活動 10. 第四次中東戦争・アラブ石油輸出国機構, 石油輸出を削減 (第一次石油ショック) 10.23 江崎玲於奈氏ノーベル物理学賞受賞
昭和49 (1974)	2. 地質標本館展示基本パイロットプラン報告書作成 7.19 地質標本館レイアウト小委員会委員による大湧谷自然史科学館見学 7.20 同上委員による横須賀市自然博物館見学	7.1 海洋地質部設立	5.9 伊豆半島沖地震 M 6.8 10.8 佐藤栄作氏ノーベル平和賞受賞
昭和50 (1975)	2. 地質標本館展示パイロットプラン報告書作成	7.1 環境地質部及び地殻熱部設立	1.22~24 阿蘇北部地震 M 6.1 4.21 大分県中部地震 M 6.1
昭和51 (1976)	3. 地質標本館展示第2次パイロットプラン報告書作成 4.13 諸外国地質研究機関から標本館ロビー展示用の岩石寄贈標本到着始まる	7.1 筑波計画室設置 10.1 環境地質部に地震地質課設置	7.28 中国, 唐山地震 M 7.8 死者約15万人 8.16~25 第25回万国地質学会議 (シドニー)
昭和52 (1977)	3. 地質標本館展示第3次パイロットプラン報告書作成 (シナリオ, コーナー基本図) 9.13 北海道歌登町でデスモスチルスの化石発見 9.22~26 デスモスチルス化石発掘作業 12.29 昭和53年度の予算政府案の閣議決定により地質標本館の建設が本決り	10.1 地殻熱部に地殻熱物性課設置	8.7~12 有珠火山噴火 11.2 国立科学博物館創立100周年記念式典

年	地質標本館の動き	地質調査所の動き	社会の動き・地球科学の動向
昭和53 (1978)	3. 地質標本館展示改訂パイロットプラン報告書作成 7.23～28 デスマステルス化石第2次発掘	10. 1 環境地質部に地震化学課及び地震物性課設置 12.25 100万分の1日本地質図(第2版)発行	1.14～15 伊豆大島近海地震 M7.0 3. 東太平洋海膨にて米仏合同潜水調査グループ、海底からの高温熱水湧出と金属鉱床形成を発見 6.12 宮城県沖地震 M 7.4
昭和54 (1979)	3. 地質標本館建築工事始まる 3.31 陳列室閉室 10. 1 新設された地質標本課が地質標本館に関する業務を担当。課長 神戸信和	4. 1 筑波移転推進室発足 10. 1 地質部に地質標本課新設 10.～11. 筑波研究学園都市に庁舎移転	3. 2～3 米国地質調査所創立100周年記念式典 3. ボイジャー1号木星接近。衛星イオの火山活動を発見 9. 6 阿蘇火山爆発 10.28 木曾御岳山噴火
昭和55 (1980)	3. 地質標本館完成 7.15 工業技術院筑波研究センター開所式にあたり地質標本館特別公開 8.19 一般公開開始 11. 8 入館者1万人達成	3.31 筑波計画室及び移転推進室任務終了	5.19 セントヘレンズ火山大爆発 7. 7～17 第26回万国地質学会議(パリ) 10.13 飛騨外縁帯より、オルドビス紀の化石発見(日本最古の化石)
昭和56 (1981)	4. 1 地質調査所に地質標本館長制が設けられ初代館長に陶山淳治次長が就任 8. 「地質標本館だより」を地質ニュース324号からシリーズで掲載し始める 9. 4 入館者3万人達成 12.15 第2代館長に沢 俊明次長が就任		6. 6 国家公務員の定年制決まる 10.19 福井謙一氏ノーベル化学賞受賞
昭和57 (1982)	5.18 入館者5万人達成 9.26 地質調査所100周年記念行事として日曜日開館	9.25～26 地質調査所100周年記念行事として研究施設公開 9.30 地質調査所100周年記念式典、講演会、祝賀会行われる	3.21 浦河沖地震 M 7.1 7.23～25 長崎豪雨 10.26 草津白根山噴火
昭和58 (1983)	6. 8 皇太子殿下・同妃殿下・浩宮殿下御視察 8.30 第1回「岩石・鉱物・化石の相談日」を開催 9. 3 入館者10万人達成 12.15 今吉鉱物標本受入、写真集の発行	10. 1 海洋地質部に海洋底質課設置	5.26 日本海中部地震 M 7.7 7.20～23 島根県西部豪雨 10. 3 三宅島噴火
昭和59 (1984)	3. 1 第3代館長に垣見俊弘次長が就任 4.22 国連 ESCAP第40回総会参加加盟各国代表団来館(日曜日) 7. 1 第4代館長に神戸信和が就任。地質標本課課長 坂本 亨 8.29 第2回「岩石・鉱物・化石の相談日」を開催		8. 4～14 第27回万国地質学会議(モスクワ) 9.14 長野県西部地震 M 6.8
昭和60 (1985)	4. 1 改良型地質標本管理・検索システムGEMS-II運用開始 8.19～25 国際科学技術博覧会の特別展示に出展 8.29 第3回「岩石・鉱物・化石の相談日」を開催	4. 1 工業技術院特別研究「地質データベースの開発と利用に関するパイロット研究」開始 7. 1 四国出張所を廃止	3.17～9.16 国際科学技術博覧会開催(茨城県筑波研究学園都市) 9.19 メキシコ地震死者約1万人 11.13 コロンビア、ネバド・デル・ルイス火山噴火。泥流により2万5千人死亡 11. 菱刈鉱山開山
昭和61 (1986)	8.27 第4回「岩石・鉱物・化石の相談日」を開催 10.14 入館者20万人達成		3. ハレー彗星、地球へ接近 11.15～21 三原山噴火(伊豆大島火山)

年	地質標本館の動き	地質調査所の動き	社会の動き・地球科学の動向
昭和62 (1987)	<p>3. 2 これまで休館になっていた月曜日の開館開始</p> <p>4. 1 第5代館長に坂本 亨が就任. 地質標本課課長 坂巻幸雄</p> <p>8.18 標本通信第1号発行</p> <p>8.21 第5回「岩石・鉱物・化石の相談日」を開催</p> <p>11. 3~12 坂本館長中国地質博物館の招待により中国訪問</p>		<p>10.12 利根川進氏ノーベル医学・生理学賞受賞</p> <p>11.30 研究学園都市5町村合併, つくば市発足</p> <p>12.17 千葉県東方沖地震 M 6.7</p>
昭和63 (1988)	<p>4. 1 第6代館長に山田直利が就任</p> <p>4. 1 茨城県博物館協会入会</p> <p>5.26 英国地質博物館ダニング館長来館・講演</p> <p>8.22 第6回「岩石・鉱物・化石の相談日」を開催</p> <p>10. 1 機構改革に伴ってこれまでの暫定的運営から部相当の組織として新発足. 地質標本課を地質標準課へ名称変更</p>	<p>10. 1 全所的機構改革による改組にともなって, 鉱物資源部・燃料資源部・地殻物理部・地殻化学部・国際協力室・地質情報センター・地質標本館・発足. 環境地質部に火山地質課設置</p>	<p>7. 1 沖縄トラフにて, 高温熱水活動を日独合同調査団が発見</p> <p>12. 7 ソ連, アルメニア地震 M 6.8 約2万4千人死亡</p> <p>12.16 十勝岳噴火</p>
昭和64 (1989) 平成1 (1989)	<p>1. 1 国家公務員への隔週週休2日制導入にとまない, 第2・第4土曜日休館</p> <p>3.31 デスモステルス骨格復元完成</p> <p>3.31 映像展示室にビデオプロジェクトー設置</p> <p>4. 1 全国科学博物館協議会入会</p> <p>4.20 山口県美祢市産「2億年前の植物化石」大型標本展示</p> <p>5.25 横浜博覧会「つくば市デー」にパネル3点出品</p> <p>7. 1 地質標準課課長 豊 遙秋</p> <p>7.17 茗溪学園科学部より花室川産ナウマンゾウ化石の寄贈</p> <p>8.18 入館者30万人達成</p> <p>8.25 第7回「岩石・鉱物・化石の相談日」を開催</p>		<p>1. 7 昭和天皇崩御</p> <p>1. 8 昭和から平成に改元</p> <p>6.30~7.13 伊東沖群発地震, 13日に海底噴火(手石海丘)</p> <p>7. 9~19 第28回万国地質学会議(ワシントン). 第29回会議の日本開催を決定</p> <p>9. 地球環境に関する国際会議(東京)</p> <p>10.17 ロマプリータ地震. サンフランシスコ市直撃</p>
平成2 (1990)	<p>3.20 東大通りの2か所に「地質標本館」の案内標示設置</p> <p>4. 1 第7代館長に神谷雅晴就任</p> <p>4.16~22 科学技術庁主催 第31回科学技術週間で「トルコの石」及び「花室川産ナウマンゾウ化石」の特別展示を行う</p> <p>8.20~27 開館10周年を記念した講演会, 特別展示, 野外観察会等の行事を行う(予定)</p>		

<受付: 1990年5月1日>